

日本語の若者言葉における助詞・助動詞短縮形の使用と エネルギーの節約

平澤陸斗¹ 西口純代²¹株式会社 SALTO ²小樽商科大学 言語センター

h.r19990926@icloud.com

nishiguchi@res.otaru-uc.ac.jp

概要

日本語の会話文では、助詞や助動詞の一部分の短縮が多く見られる。先行研究では、会話の中で短縮語を用いる要因は大きく4つあると主張されている。本稿では実際の会話データをもとに、助詞や助動詞が短縮される要因と背景について再検討した。検証の結果、短縮化にはスピード化、言語の自由化、娯楽化、帰属化の4つの要因に対応する効果はあまり見られなかった。実際には、エネルギーの消費を少なくすることを狙って短縮化を行っている、またその過程で4つの効果が副産物的に得られることがある、ということ提唱する。助詞・助動詞の短縮の真の要因を「エネルギーの節約」とであると主張する。

1 短縮語

1.1 短縮語とは

本稿の目的は、日本語の日常会話で、語句の短縮がどの程度行われているかを分析し、その性質から、単語を短縮して話すことにどのような要因があるかを研究することである。短縮語は、類似するものに略語・省略語があり、非常に曖昧な概念である。文献やウェブサイトによってその定義にわずかな差異があるため、本稿では短縮語を次のように定義した。短縮語とは、本来の意味を保ったまま、文字数や拍数、発音にかかる時間が短縮される語のことを指す。また、短縮語と省略語は区別して研究を進めることとする。短縮とは会話の中に現れるある語の形を変

え短くすることを意味する。一方省略とは、その語を完全に取り除くことを意味する。

(1) あなたは今夜、何をしているの？

(2) 今夜、何してるの？

(2)は同じ内容である(1)をもとに、語の省略と短縮を行って作成した文章で、「しているの」が「してるの」に短縮されている。一方、省略されている単語は、主語の「あなた」、助詞の「は」「を」である。このように、意味と形を保ったまま文字を少なくすることを短縮、その語自体を取り除くことを省略とする。短縮語が使用される状況については、基本的に敬語表現を用いない、いわゆる「タメ口」が許される関係性の話者同士の会話でよく見られる。丁寧な表現が求められる場面や、会話を行う人同士の関係が対等でなくかつ、「タメ口」が許されない状況では、短縮語の使用は回避されることが多い。

1.2 短縮語の例

短縮語の例として、付録の会話データの中から抽出したものをまとめたものを表1にした。会話データから確認された短縮語とその原型を記している。原型とは、短縮語をより丁寧な言い方に修正し、口語の形にしたものである。また原型の語句を品詞分解して「・」で区切り、その右側に品詞の種類を、原型の品詞分解の順番に対応させる形で表記した。

表1：短縮語の例

短縮語	原型 (一般的な形)	原型の品詞分解	それぞれの品詞
しなきゃ・しないと	しなれば	し・なけれ・ば	動詞・助動詞・助詞
～してる	～している	し・て・いる	助詞・動詞・助動詞
～してんの？	～しているの	し・て・いる・の	助詞・動詞・助動詞・助詞
てか	というか	と・いう・か	助詞・動詞・助詞

したら、そしたら	そうすると・そうしたら	そう・する・と	副詞・動詞・助詞
～じゃない	～ではない	で・は・ない	助詞・助詞・形容詞
そうね	そうだね	そう・だ・ね	副助詞・助動詞・助詞
～しちゃった	～してしまった	し・て・しまっ・た	動詞・助詞・助動詞・助動詞
～するんじゃ	～するのでは	する・の・で・は	動詞・助詞・助詞・助詞
～しよ	～しよう	し・よう	動詞・助動詞
すか	ですか	です・か	助動詞・助詞
じゃあ	それじゃあ・それでは	それでは	接続詞
までも	まあでも	まあ・でも	感動詞・接続詞
って	と・とは	とは	助詞
の	もの	もの	名詞
とこ	ところ	ところ	名詞

1.3 短縮語に関する先行研究

1.3.1 短縮語が使用される要因

瀬沼 (2005) は米川(1998) を参照し、会話の中で短縮語や省略語が使用される要因は4つあるとしている。「1つ目に現代社会のスピード化である。現代はあらゆる面でスピードを求められる。限られた時間内で効率よく、大量のものをこなすことが求められている。そのような中で若者は、話し方自体を速くするだけでなく、言葉を縮めて、会話促進のために言葉の省略が進んだ(米川 1998)。」日常で好きなだけ時間を取って、遅いスピードで会話ができる場合は多くない。時間的な余裕がないため一つの会話にかけられる時間自体も短く、会話を促進する機能には非常に多くの需要があると考えられる。

「2つ目の要因としては、現代社会は自由を求めてきた。その結果、個人の自由が拡大した一方で、自己を含めてあらゆる事柄の意味があいまいになったり、価値を見失い、アイデンティティーを失った。そのような中で、事柄を言語化することが困難になった。また、仮に言語化しても意味はあいまいで浮遊している。そういう言葉は軽く、扱い方も軽い。そこから言葉がどんどん省略化されていったと考えられる(米川 1998)。」 「3つ目の要因は言葉の娯楽化である。若者は会話を楽しむために使う。したがって既存の語だけでは、会話は盛り上がらない。そこで言葉を省略して、従来の語とは違った語感を持たせて、おもしろさを出し、会話を盛り上げているという(米川 1998)。」娯楽性を持つ単語は、一定の

リズム感とキャッチーさを備えている。ル動詞(尾谷 2019)は英語・日本語・人名などあらゆる言葉を2モーラに短縮した後、語末にルをつけることで動詞化するものだ。同じモーラ数と、短縮によるキャッチーさがあり、若者の間で使われることが多い(玉岡 2010)。「4つ目の要因としては、仲間内で通じる言葉で仲間意識を高めているということも考えられる(米川 1998)。」

このように、言葉を短縮させることには、4つの要因があり、短縮語の使用はそれに対応する効果が発揮されることが期待される。特に若者言葉には、自由な表現が非常に多く含まれており、新語や流行語、JK語などの多くは、若者が発信源である。

1.3.2 乱れとしての短縮語

若者の言葉の乱れはよく指摘される。ら抜き言葉は有名な現象の一つだ。船木(2002)によれば、ら抜き言葉は動詞の語幹の「られる」接続を「ら」を抜いて可能を表現する語法で、助動詞の「られる」の短縮語である。本稿で扱う短縮語は、乱れとしての短縮語なのであろうか。それとも新しい日本語の一部なのであろうか。坂本(2001)は、言葉の乱れは、自分の規範と異なる言葉遣いを見聞きした時に発せられるもので、相手や第三者の発した言葉遣いが、自分の考える規範と異なっていると考えたときに、相手や他人を批判する時に使われるものだとしている。1.1で述べたように、会話で短縮語が使用されるのは、対等な関係同士での会話である。このような場合に、相手の言葉に、自分の規範から外れた言葉遣いを見聞きすることは少ない。あっても、わざ

わざと批判するほどの言葉遣いであることは稀である。本稿で扱う短縮語は、言葉の乱れと指摘される種類の語法ではなく、話し言葉として頻繁に使われる新しい語法である。

2 検証

2.1 日常会話の検証

短縮語の使用をより詳しく調べるための検証を行った。一つの話題について普段と同じ言葉遣いで大学生に会話をしてもらう。日常的な会話とするために、話題はトレンドワードや興味・関心を持っている趣味などの話題を選択してもらった。二人で1分間を目安にし、会話がひと段落したタイミングで終了する。1分間を大きく超えた場合は、1分前後で区切りの良い場所で編集し会話を記録し、会話時間が2分を超えないように設定した。音声を録音し、文字起こししたものを付録Aに記す。一回目の検証を①、二回目の検証を②というように表記する。

2.2 検証結果の分析

計7回の検証のうち、短縮回数は41回で、最も多く短縮された品詞は助動詞の27回だった。「～している」を「～してる」に短縮する形が最も多く見られた。会話時間の平均約1分22秒あたりの短縮語の出現回数は5.86回で、一度の会話に約6回短縮語が使用される。一方的な会話では聞き手の応答は「うん」「そうなんだ」など、単調で文字数の短い返答が多かった。返答に対する間や、「あー」「その～」「なんか」などの冗長表現も多く見られた。仲間内でのみ伝わる短縮語は見られず、全てが日本語のネイティブスピーカーであれば意味がわかる表現であった。短縮語によって笑いが起こったり、会話が盛り上がったことはなく、短縮語に娯楽を意識する姿勢は見られなかった。短縮語が使用される要因として先行研究で4つの要因が挙げられたが、今回の検証では、短縮語に対応する効果は見られなかった。ただ、短縮することによって、単純に文字数が減少し、時短、スピード化に関しては一定の効果が得られることが分かった。表2は短縮回数を品詞別に集計し、7種類の短縮が確認され最も短縮が多いのは助動詞であった。

表2：検証結果のまとめ 単位（回）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計	平均値
助詞	1	2	1	0	1	0	0	5	0.71
助動詞	5	6	3	1	6	3	3	27	3.86
動詞	0	1	0	0	0	1	0	2	0.29
接続詞	0	0	0	0	0	0	1	1	0.14
名詞	0	1	0	0	0	1	0	2	0.29
副詞	0	0	1	0	2	0	0	3	0.43
感動詞	0	1	0	0	0	0	0	1	0.14
合計	6	11	5	1	9	5	4	41	5.86

2.3 検証結果の考察

スピード化の観点から一定の効果が見られたが、短縮語によって短くなった時間も1、2文字分の時間であって、スピード化を図るために短縮語が使用されたわけではない。助動詞や助詞の短縮は、会話上なくても伝わる文字を短縮したにすぎない。短縮語の使用で会話のスピードが速くなっても返答に対する間や冗長表現が当然あり、会話の時間自体を短くしようという意図は見られなかった。つまり日常会話で、短縮により文字数を短くし会話を早く終わらせたり、効率を高めようとしたりする目的はないと考えられる。短縮の要因は別にあることが推測される。では、なぜ短縮は行われるのだろうか。語句の短縮、特に助動詞や助詞の短縮は、単なる「言いやすさ」を無意識的に優先して短縮を行っているのではないだろうか。そしてそれが、口語における短縮語使用の要因なのではないだろうか。

3 結論

3.1 エネルギーの節約

以上の検証と考察を踏まえて、日本語会話の中で語句の短縮が起こる要因は、「エネルギーの節約」で

あると考える。会話が最低限成立する範囲内で、文字数を節約しエネルギーを節約しようとしており、そこには、長く話したがるらないということが関係している。特に10, 20代の話者は、極力少ない文字数で会話をしようとする。親が子供に対して質問をした際に、「うん」や「知らん」、「あ、そう」と淡泊な返答をすることがよくある。反抗期や、適当に会話を流してもいい関係であったり、長い文字数をかけて会話をしたくないという姿勢が、若者にありがちであると考えられる。日常会話の中で、話題が解決・完結せずに次の話題に流れていくこともある。瀬沼(2005)も若者の話を聞かない態度に言及しており、「講義の場などでも、学生たちに話を聞く気はない」「話を聞いていないだけでなく聞く姿勢や態度すら持っていない」としている。学生同士の会話では「自分が発言したいために、「っていうか」を使い無理やり自分の話に変えているのも特徴である(坂本 2001)。別の話題が流れ込んだり、相手の質問に答えずに話題が終了したりする事態が頻繁に起こり、適切な順序を踏んだ会話自体も、減少傾向にある。言葉が足らず、意図が伝わらなかった場合は聞き返したり、後に説明を付け加えたりすることで会話を成立させようとする。一度の自分の番にすべてを話すのではなく、ラリー数を増やしてコミュニケーションを取るという方法に移行してきている。語句を短縮することで得られる効果のためでなく、会話にかかるエネルギーを節約しようとして文字を短縮させた結果、そのような効果も副産物的に得られるようになったのではないかと考える。

3.2 文字による会話

SNSの普及により、画面上で、文字で、やり取りをする機会が圧倒的に多くなった。「LINE」をはじめとするSNSは今や、コミュニケーションツールとして日常生活に必要不可欠で、やり取りをより快適に行うには、簡潔な文章にすることが必要だ。玉岡(2010)が「携帯電話での電子メールの普及に関係がありそうである。長い文を短い短縮語的な表現に置き換えることは、携帯電話での電子メールの発信に好都合である。」と述べるように、書き言葉でこそ、短縮語は非常に多く使用される。承知したことを表すなら「おけ」、了解したら「りょ」または「り」と、これほどの文字数でも相手に意図を伝えることが可能だ。このような書き言葉は、話し言葉にも影響を与えている。LINEで「今何して

る？」や「やっぱ今日行かんわ」と、対等な関係性の相手には短縮語を使用する。日常で機会を増した書き言葉は話し言葉にも伝染し対面の会話でも「おけ」や「りょ」などと話すようになる。書き言葉で短縮語を使用する理由も、単純に文字を打つことにかかる労力を減らすためだ。文字を打ちこむのと発音するのでは、文字を打ち込むほうが時間も労力もかかる。話し言葉で使う理由も労力つまり、「エネルギー」の節約であることは十分に考えられる。

3.3 外来語短縮形成の定説

外来語短縮形成は、外来語で長い文字の名詞を、その一部分を抜き出し短縮語を形成するものだ。「インフレーション」を「インフレ」、「ハイテクノロジー」を「ハイテック」と短縮する。窪菌(2010)は、「これまでの研究に共通しているのが、短縮形は短ければ短いほど良い(the shorter, the better)という考えである。つまり、短縮語形成は基本的に省エネ、経済性(economy)の原理によって引き起こされているから、出力形が短くなるほど、その原理に合致すると考える。」と述べている。会話を行う当事者同士が意味を把握しているなら、「インフレ」、「ハイテック」のほうが言いやすく、会話でも疲れない。助詞や助動詞の短縮も同じ原理で、わざわざ「～していますか？」と長く発話するよりも「～してる？」と尋ねたほうが言いやすく、疲れない。また、余計に気を遣うようなニュアンスも含まず、エネルギーを節約している。

4 まとめ

日本語会話における短縮語使用の要因を、「エネルギーの節約」であると主張した。一度に長い文字数や時間をかけたくないという傾向があるということ、そもそも会話自体に力をかけたくない傾向があるということが根拠である。また、SNSの普及・発達や、それによる若者文化が他の世代にも浸透し、コミュニケーションひいては言葉のあり方にまで影響を及ぼすようになってきた。その中で短縮語の使用は、現代の会話に必要な「言いやすさ」と「使いやすさ」を備えた最適な言語となりうる。また、言葉が変動的・流動的であるように、短縮語も時代が進むにつれて形やあり方が変化していくものだと考えられる。そのため、今後も継続的に言葉の変化について調査や検証を続け、敏感に最先端の言葉を注視していくべきだと考える。

謝辞

本論文作成に当たって、小樽商科大学夜間主西口ゼミのメンバーの協力を感謝する。

参考文献

1. 尾谷昌則(2019)「ル動詞を構文論の観点から見直す」『日本言語学会第 158 回大会予稿集』387-392.
2. 窪菌晴夫(2010)「語形成と音韻構造：短縮語形成のメカニズム」『国語研プロジェクトレビュー』3, 17-24, 国立国語研究所.
3. 坂本恵(2001)「言葉の乱れをどう考えるか」『麒麟』10, 86(1)-78(9), 神奈川大学.

4. 瀬沼文彰(2005)「若者言葉をフィールドワークする」『コミュニケーション科学』22, 295-323, 東京経済大学.

5. 玉岡賀津雄(2010)「新しく作られた短縮語使用に関する世代間比較」『ことばの科学』23, 85-99, 名古屋大学言語文化研究会.

6. 船木久範(2002)「いわゆるら抜き言葉の現況とその考察」『日本文学誌要』65, 117-127, 法政大学国文学会.

7. 米川明彦(1998)『若者語を科学する』東京：明治書院.

品詞分解に使用したツール

「日本語品詞分解ツール」

(https://tool.konisimple.net/text/hinshi_keitaiso)

A 付録

検証①

A: 20代 男性 大学生 北海道出身・在住

B: 20代 男性 大学生 北海道出身・在住

話題: Apple について (2021年10月20日)

A: Apple 好き?

B: どっちかという、憧れてるイメージある。iPhoneとかMacとか持っていないから。そういうの持ってみたいなどは思ったりはする。

A: あー、なるほど。

B: Apple 使ってる?

A: 朝に食べたりとか?

B: 、 、 、 。

A: ごめん、今のボケ。

B: あ、そうなの、ごめん。

A: 今使ってるの、iPad なんよね。

B: iPad ってなんか知的な人が使うイメージあるよね。

A: そんなことないよ。

B: iPad ってなんか、アンドロイドのタブレットに比べて、重いって聞いたことあるんだけど、わかる?

A: わかんないな。今までアンドロイド使ったことなかったから。逆に使ったことある?

B: タブレット持ってるね。

A: へえー。

会話時間: 1分38秒

検証②

A: 20代 男性 大学生 北海道出身・在住

B: 20代 男性 大学生 北海道出身・在住

話題: コロナ (2021年10月20日)

A: 前さ、なんか「ラーメン共和国」っていう札幌エスタの10階にあるラーメン屋で、俺働いてたんだけどさ、

B: うん。

A: なんかそんなときに、冬祭りの時期っていうのもあって、なんか中国人の観光客が、もうほんと、めちゃくちゃ多く来てたんだよね。

B: 、 、 、 、 。

A: で、なんか、うちの店のみんなが、コロナになんじゃねえかなってめっちゃ心配してたんだよね。

B: そうなんだ。

A: そうそうそう。

B: 大変だったね。

A: そうなのさ。までも、そんなときあんまりコロナの話題とかもなかったから、結構大丈夫じゃねえかなって思ってたんだけど、なんか今だったら、もうすごいコロナって怖いもんで感じるよね、B。

B: そうだね。

A: だよな。なんか、どう思うBは?

B: そうだね、最近はコロナ減っては来てるけど、やっぱりワクチン打った方がいいのか、打たない方がいいのかってところが結構心配かな。

A: あー、確かにね。それは言えてるわ。俺もそう思う。

B: ありがとう。

A: (笑い声)

会話時間: 1分37秒

検証③

A: 20代 女性 大学生 北海道出身・在住

B: 20代 女性 大学生 北海道出身・在住

話題: ハイキュー!! について (2021年10月27日)

A: 『ハイキュー!!』見たよ。

B: どこまで見た?

A: 2期全部見て、

B: 早い!

A: そう、50話見た!

B: (笑い声)。結構かかるじゃんそれ。

A: 3期の3話目。

B: 3期ってなんのやつ?

A: 白鳥沢学園。

B: あ、そっか、おけ。

B: Aが好きなキャラは?

A: うちは、ケンマが好き。

B: あー、Bは、クロオが好き。あの、

A: ケンマの横ね。

B: そうそうそう。

A: 人気だよな。

B: そうだよな。え、あのさ、『ハイキュー!!』展行かない? 来月。

A: いいよ、一緒に行こう。

B: 先に予約しないといけないのさ。

A: それ8日まででしょ?

B: そうそうそう。

A: え、行く。行こ行こ。空けるわ。

B: 行く人探してたんだよね、ずっと。

A: え、全然行く。それまでに全部見るわ。そしたら。

B: そう、早く見て。でもBはあとマンガ4巻分余ってたんだよね。

会話時間: 1分6秒